

⑨日本国特許庁

⑪特許出願公開

公開特許公報

昭52—112543

⑤Int. Cl.²
A 01 G 9/02

識別記号

⑥日本分類
2 B 3
2 B 0

庁内整理番号
7150—21
6852—21

④公開 昭52年(1977)9月21日

発明の数 3
審査請求 有

(全 4 頁)

④重ね鉢による立体植物栽培方法及び重ね鉢

岐阜県安八郡安八町北今ヶ淵21

1

②特 願 昭51—30057

⑩出 願 人 広瀬治

②出 願 昭51(1976)3月19日

岐阜県安八郡安八町北今ヶ淵21

⑦発 明 者 広瀬治

1

明 細 書

1. 発明の名称

重ね鉢による^{立体}植物栽培方法及び重ね鉢

2. 特許請求の範囲

- (1) 外周面には中空半角錐形、中空半球形その他任意形状の開口部を有し、かつ数個を積重ねた鉢本体のそれぞれの開口部により下部に位置する鉢本体の上縁内に多角形、半円形その他任意形状の培養土面を露出させ、その水平な培養土面に植物を植え、各培養土面毎に施肥、散水、手入れができるようにした重ね鉢による^{立体}植物栽培方法。
- (2) 底面に糸尻状にした嵌合縁を有し、かつ外周には中空半角錐形、中空半球形状その他任意形状の開口部を所設数個宛設けた鉢本体を形成し、この鉢本体を数個積重ねて各開口部と下位の鉢本体の上部内とを連通させ、下位の鉢本体の水平な培

養土面を多角形、半円形その他任意形状に露出するようにした特許請求範囲第1項記載の方法を実施する鉢本体。

- (3) 下部内外に嵌合縁及び底孔を有し、かつ上部周縁に打破りにより植孔及び内部に通じる薄肉の打抜き部分の所設数個を設けた特許請求範囲第1項記載の方法を実施する鉢本体。

3. 発明の詳細な説明

この発明は同一形状の鉢本体を多数積重ねて鉢本体毎に水平に露出させた培養土面に植物、苗木、草花その他の植付けと、施肥、散水、手入れなどを個々に行ない、同時に根菜類、花の根などの取出しを容易にしたものである。

(従来技術)

従来第6図に示すように周面に多数の植込み孔11を設けた円筒体12に培養土を詰めて各植込

BEST AVAILABLE COPY

み孔11に植木、苗木等を植えて植物を育成するようにしたものはあつたが、培養土層が通常の植木鉢の数十倍も厚いため、下部の培養土層が硬化して水分及び肥料分の浸透を阻み、植物の育成に上下の差が甚だしく生じたり、根葉類、花の根等の取出しが極めて困難であつた。

この発明は多数個の鉢本体を積重ねて空間を利用すると同時に、上下部を問わずに施肥、散水、手入れ等を差別なく施し、ひいては植物の育成を均一にし然も外観を殊の外優美にしたものであつて以下実施例を第1図乃至第3図(f)、(g)に就いて説明する。鉢本体1は実施例に於いてはほぼ円形で下部外周にはほぼ中空半角錐形にした切欠き状の開口部2の数個を形成し、この鉢本体1の底面には各端に後述する積重ねの際に下位の鉢本体1の上縁3に掛け止めされる突縁4を有するほぼ十字

うに構成する。尚、受台10は培養土のみを詰めた円筒形に形成してある。

この発明に於いて鉢本体1、1a又は1bの所要数個を積重ねて空間利用により植物の栽培を行なうには、第1図のように受台10を地上に据えこの受台10の上に第1図のように培養土を詰めた所要数個の鉢本体1を積重ねる。

この場合、下位の鉢本体1の上縁3と上位の鉢本体1の各開口部2との間には平面的には多角形で立体的には中空半多角形の空間が多数形成され、その平面上に培養土面7を現わすので、この培養土面7に植木、苗木、草花等の植物Aを植えるか種子類を蒔いて爾後施肥、散水、手入れ等を随時行なう。又第4図及び第5図(f)、(g)に示す別の実施例の場合も上述に準じて積重ね、植物Aの植付け、施肥、散水等を行なう。

特開昭52-112543(2)

形で中心部に底孔5を有する嵌合縁6を備え、この鉢本体1の数個を第1図のように積重ねた時に各鉢本体1毎の上縁3の内側と上位に在る各鉢本体1の各開口部2とにより露出されて外氣と迎じるほぼ水平の培養土面7を現わすように構成し、この露出培養土面7と外部に迎じる中空半角錐形^上の空間を藉て植木又は種子を蒔付けるように構成する。

第4図及び第5図(f)、(g)に示すものは何れも別の実施例であつて第4図の鉢本体1aは開口部2aを何れもほぼ半円形にしたものであり、第5図(f)、(g)に示す鉢本体1bは上縁3に使用の際に打破つて植物を植える薄肉の打抜き部分8を有する横穴9を設け、底面に多数の底孔5a及び円形の嵌合縁6aを備え、何れも前述に準じて積重ねられるように、又個々に平面状に並べても使用できるよ

この発明は上述のように底面に中空所設形の開口部を有する同一形状の鉢本体の数個を積重ねて相互間に開口部による水平の培養土面の多数を形成したので、植物を通常の姿勢で育成することができのみならず、爾後の施肥、散水、手入れ等を極めて容易にし、同時に外観に優美さを加えて特に玄関ポーチ、階上のベランダ等に場所を占めないで置くのに好都合であり、然も根葉類、花の根等を植えた場合に取出しが容易である等の優れた効果がある。

又、この発明は鉢本体個々に所要量の培養土が詰めてあつて、従来培養土が底の深い円筒体の中に詰められ、その大きい積層の重量により押固められるものと異なり、鉢本体毎に積層及び同一の積層による培養土が詰められているので、養分及び酸素の吸収を活発にして植物の育成を好ましい

BEST AVAILABLE COPY

状態に促進することができる。又この鉢本体は假々に平面に並べることもできる。

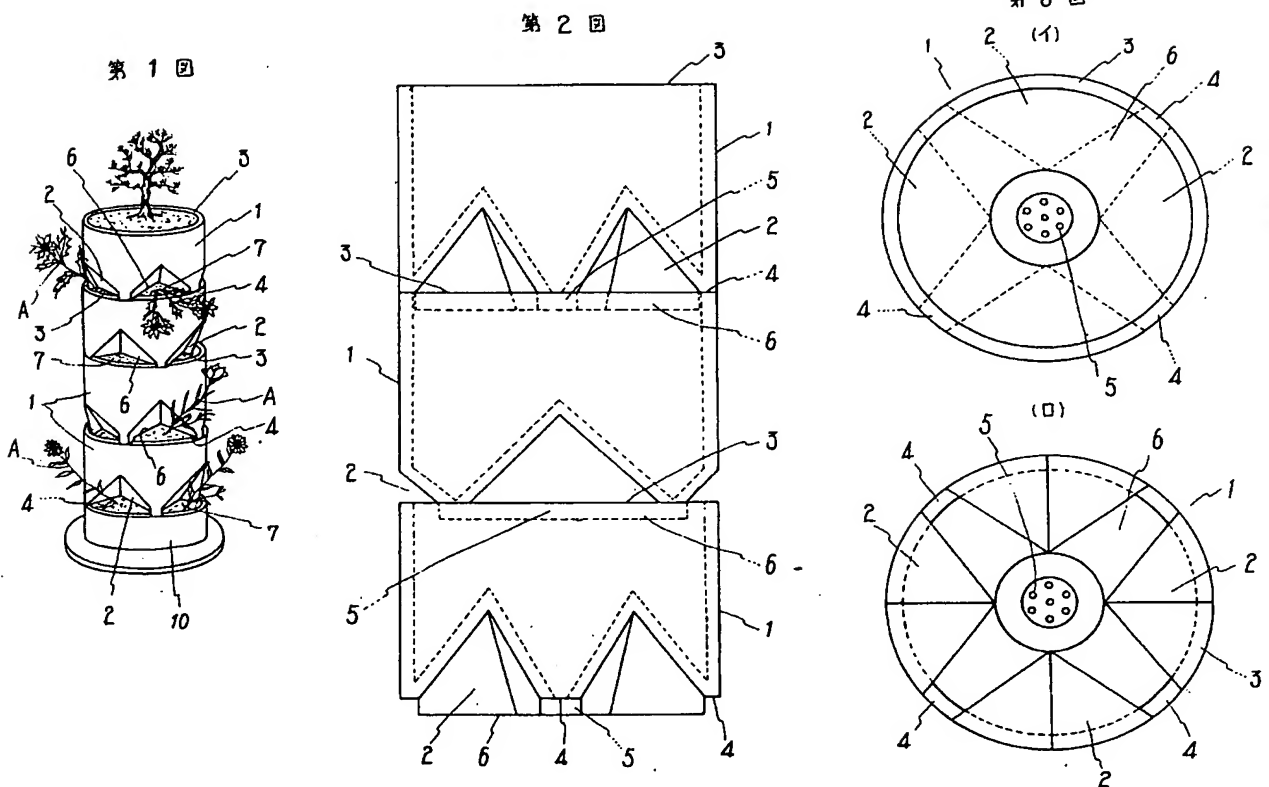
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の積重ね要領及び水平の培養土面を現わした立面斜視図、第2図は同じく積重ね要領を示す拡大立面図、第3図(イ)は鉢本体の拡大平面図、(ロ)は同じく底面図、第4図は別の実施例の拡大平面図、第5図(イ)及び(ロ)は更に別の実施例を示す拡大平面図及びその側面図、第6図は従来技術の説明図である。

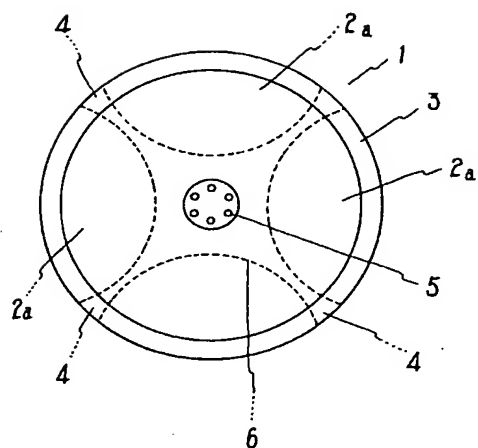
(主要部分の符号の説明)

1, 1a, 1bは鉢本体, 2, 2aは開口部, 3は上縁, 6, 6aは嵌合縁, 7は培養土面, 8は打抜き部分, 9は横孔である。

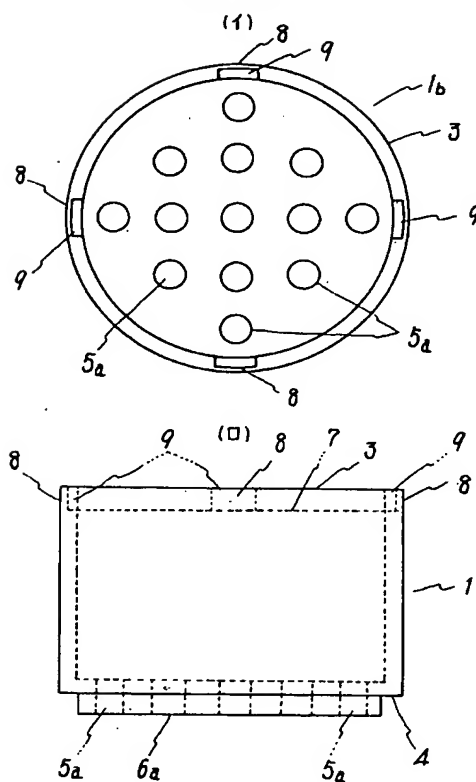
特許出願人 広 瀬 治



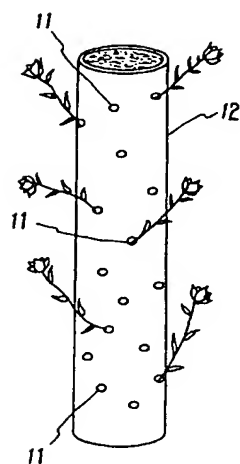
第 4 図



第 5 図



第 6 図



BEST AVAILABLE COPY